"明治百年初日一億を照らす"

明治百年に当たる今年の元日は晴天に恵まれ、初日は、人口世界5位の1億を誇る国土をあまねく平等に照らし意義深いこの年の幕は厳かに開かれた。

百年前、慶応4年9月8日（大陰暦）に慶応を改めて明治となすという改元の詔勅により、近代日本の礎が確定され、太陽暦に直すと1868年10月23日になり、その間、日清、日露、第一次大戦、満洲事変、第二次大戦などの戦争を経て、社会、経済、文化などのあらゆる分野に驚異の躍進を続け、元旦から大いなる希望に向つて一層の飛躍を続けている。

"物価また値上り そうな年が明け"

ささやかな私達のくらしを圧迫する物価上昇の嵐が、新年早々吹き荒れそうである。消費者物価5％に押えるとか、定期乗車券、授業料、酒、たばこの値上げなど、これらに関連して諸物価は一斉に値上げへスタートするだろうし、明治百年の今年も内外ともに多事多難の年となりそうである。

"賀状フト若き日の幸思う"

年賀状がドサリ新年の祝詞を届ける。1年の義理を果たそうとする賀状にもいろいろあつて、あいつも無事であつたかなど旧友の懐しい顔を思い浮べる。若き日ホノカに胸をときめかした彼女から旦那さんと連名の賀状など、あの時あの頃を思い浮かべ一人ニヤニヤ妻へは内緒の出来事も正月ならではである。

"酔つぱらい天国三ケ日の幸"

正月の三ヵ日は、酒呑みの天下である。おめでとうの一言でお酒がヂヤンヂヤンいただけるし、ご馳走もいただける。酔つぱらつて少しぐらい破目を外しても正月だからと寛大に扱われるし、ただ1、外は交通戦争、昔のように道路をフラフラ、道つぱたに寝ころんでしまうような風景を余り見かけられないから酒呑も上手になつてきたようだ。飲酒運転ご用心。

"交通戦争初詣に無事祈る"

正月の神社、仏閣は初詣の善男善女で賑わう。

家内安全とか、試験合格とか、よい縁談がとか人それぞれの願い事を、この時ばかりは殊勝な気持で祈る。最近多いのは交通事故防止のお願いとか、昨年は史上最高の事故数を記録、新年早々交通事故が毎日の紙面を飾る。今年もまた交通事故増加は避けられそうもないようだ。

"正月の行事昔を懐しく"

もういくつ寝るとお正月と歌われた私達の幼い頃のお正月は、正月らしいいろいろな行事が多く本当に正月という実感を味わつたものだが、凧揚げ、コマ廻し、羽根つき、カルタ取り、竹馬乗りのように子供の行事、若水汲み、山入り、鍬入(水戸地方でカラス呼ばり)、七草がゆ、三河万才、ワーホイなど1月中が正月らしい奮囲気に包まれ、のんびりと楽しんだものであつた。時代は急転し諸事あわただしいこの頃、正月の三ヵ日も夢の如くに、また何時もの忙しい日常生活に戻つてしまつた。

(31)

"一年の計一応は立ててみる"

一年の計は元旦にありと、今年こそはと年頭に何等かの誓いを立てゝみるが、この一年の計も社会、経済の大きな動きの中でふり廻されてしまつて、毎日、毎日小市民のくらしの中で何時の間にか忘れられてしまう。そして例年のことながら年の終りに漸愧の至りと一年を回顧する始末である。

"御用始今年の健斗を誓う"

1月4日は、暦にもある官庁の仕事始め、唯一の長期休暇である年末、年始もアッという間に過ぎ去つて、いよいよこの日から新しい年を、新しい気持で祝い合い、これからのお互の健斗を誓い冷酒で乾杯というところ。楽しみは女子職員の晴れ着姿を拝めることでもある。

先生不用時代

横須賀弘

今年の正月ほど好天に恵ぐまれた平穏無事な新年も珍らしい。1月15日の成人の日も連休とあつては若人の夢も大きい。むかし、この日は小正月といつて社会風俗のなかにも多くの行事が行なわれていたものである。小正月というのは1月1日の大正月に対し、1月14日、15日を中心とする正月をいう。日本古来の教多い正月行事からも1月の満月（望といつた）の日を正月とした古代の正月の名残りであるとされている。九州のある地方では小正月を望年、望正月といゝ、宮城県のある地方でも前夜の14日の晩を望年越といつていることからも上述のことがわかる。また、小正月を女正月ということもある。松の内はとかく女性の雑用が多く多忙であるので、この日にあらためて女の正月をさせる風習が江戸の商人の間で行なわれたことが古川柳のなかにみることができる。

ところが現代では成人をむかえた年頃の女性が振袖を寒風になびかせる祝日に代つた。社会機構はすべてマイホーム主義の倫理の上に確立され、日本人の勤勉さもその上にのつて発揮される。こうした風潮にある有名会社ではこうした社員に重要な仕事をまかせられないと「マイホーム型」と「野心型」に分けて全社員からマイホーム主義を追放し能率化を企画したという。こうした思考の流動の変容のなかにも1980年はコンピュータ時代への第1年目ともいわれる。すべて物事は電子計算機によつて処理され、あらゆる部門にコンピュータは進出してくるのである。

香川大学付属高松中学校では電子計算機による数学教育を実施しているという。教室には数台のテレビがあり、テープレコーダーが問題を説明していく。机にはボタンがあり、問題がでると生徒は正解と思う番号のボタンを押す。その解答が正しかつたか間違つたかは教壇のランプで一目でわかり、全生徒についての正答は直線、誤答は点線の記録によるテープが自動的に成績を記録するという。この結果過去においても労力テスト3年連続日本一の記録を持ち、現在でも常に上位を確保しているという。

水戸市内のある家庭でも市内の有名小学校入学の準備に正月を返上して幼い子供に受験準備をすゝめ深更に及ぶまで勉学にはげんでいるという。自分の子供に夢を託し、何をしようとその良否についてはわからないが、何か割り切れない気持が心の一隅に残る。英才教育に熱心な教育ママさんはいつそ高松への転居も一案といえる。しかし、コンピュータの普及により現代の教育制度も大きく変進するだろう。その結果先生も不用となり、佐世保で狂乱する学生群もなくなることだろう。

＜ちょっと一言＞

昨年の消費者物価の上昇が今までより低かつたと思つたら、豊漁で生鮮魚貝が安くなり、また好天に恵まれて野菜やくだものも値さがりされたことと雑費の上昇が小幅だつたことが原因のようであつた。ところが、われわれの生活にとつて、43年はきびしすぎる様々な材料がそろつている。昨年の米価の引き上げに続く引き上げ、タバコ、酒類、定期代等々公共料金の値上げである。一千億の減税はこれらの生活に直接こたえる公共料金の増税によつてまかなわれるようだ。その上、昨年の卸売物価指数を見ると9月以来の金融引きしめにもかゝわらず、5月からずつと上がり続けているので、このまゝでいくと、43年は、はね返つて、小売価格、消費者物価の上昇に強力なバックアップを演ずることになろう。

このように予想される悪条件はすべて、統計の裏づけによつているが、さて、われわれの収入はと考えると、何ら増収のうらずけとなる数字は見あたらないのである。引きしめの効果があらわれるころには、倒産会社が続出するだろうし、街には金策に右往左往する中小企業の経営者があふれることにならう。

こうなつてくると政策の不在などといつておれない。何とか生きねばならないから、人間の心にも少なからずすさんだ空気を送りこんで、社会全体の人間性不在に拍車をかけることになつて、世の中の混乱をまねくことになりかねない。